



第 67 号

発行

号 者 局

平成18年3月20日
飯田 出版 所
TEL. 3700-3657

砦公園の桜

と 著 者 奥田美穂子

「砦公園の桜」と言われて思い出すのは、いつも子どもたちと共に見た桜の風景です。

世田谷に住んで16年になるのですが、9年前、私が双子の赤ちゃんを授かった頃から砦公園とのつきあいが始まりました。

やっと歩き始めた2人の子の手を引きながら砦公園に行き、その後幼稚園に入るまで数えきれない程公園に通いました。

桜の季節でありながら、やんちゃなわが子たちを追いかけまわしていたこの時期は、ゆっくり花の姿を見る余裕もありませんでしたが、それでも、時折一息ついて見上げた先に咲いていた桜の美しさは、忘れることのない思い出になっています。

爛漫の桜の下を子どもたちが駆け回る風景が、いつまでも続いていくよう願っています。



西用賀通りの桜

と 著 者 千野昭江

西用賀通りの桜は確か昭和六十一年頃だったでしょう。か、工事が始まった当初は「ウワー運転がしにくくなるー」と思ったものです。

春が来ると、か細い枝にもチラリホラリと花を付けそれはそれで可愛いくほほえましいものでした。ところが若木はみるみる大木に育ち、見事な桜のトンネルに、その頃だけは自転車はやめて、孫の手を引いてそぞろ歩きを楽しみ、そして決まって

桜の花の咲くころは

うらら うらら

日はうらら

と孫に唄ってやるのですが、本人が一番桜に溶かれています。

わがまちみ化

と 著 者 瀬田フワリーランド

瀬田フワリーランド

瀬田5丁目の住宅地の一角にあるお花畑です。

シンボルは本場中央に立つ2本の紅花。どの木で、5月になると綺麗なピンクの花が咲きます。お花畑では2月末から色とりどりのパンジーが咲き始めます。

4月には、ログハウスの2階からクレマチスアーマンの白い花が垂れ下がり、あたり一面に甘い香りを漂わせます。5月からは花の最盛期を迎え、中でも赤や黄色のバラで出来たアーチトンネルは、それはそれは見事なものです。

四季折々、いろいろな花に出会える素晴らしいお庭です。散歩がてら是非お出掛けになってみて下さい。

用賀の桜

と 著 者 塚原 都

二月、風は冷たいのに桜の花芽はもうふくらみかけている。古木の間にただ一本ひっそりと咲いている十月桜も、又、楚々とした風情を感じさせてくれる。

当地に住み始めた頃、周囲はまだ広々とした野原畑で、鶯の鳴き声や晴れた日には馬糞の臭い等、まだまどかのかな農村風景だった。谷沢川兩岸の桜は今も見事で「桜花爛漫」を絵に描いた様である。

どこにでも咲いている桜花なのに、嫁いだ娘達は今も時折になると「今年の用賀の桜はどうお？」と嬉しく思ってくれている。

若葉の頃も又すばらしい。

ばい

と 著 者 二子玉川郷土史会

二子玉川郷土史会

第一遊園地の花見は、五電の身延山開業別院前から治大夫堀に沿って植えられた桜並木が、グラウンドまで続き、玉川寺前のお花見が盛んだった。

第二遊園地と多摩川堤防の桜は、昭和十五年（紀元二千六百年）の頃、日独坪の三國同盟の記念に植樹されたもので、競売遊園地となってから行楽客がお花見に来るようになった。

公園の入口の右奥にはお茶屋さんがあり、排毛毬の緑台で花見ができた。

公園の中ほど、現在の玉川高校側には運動会もできるグラウンドがあり、家族でのお花見をした。



木洩れ日

と 著 者 飯田恭次

記録的な大雪に見舞われた日本列島も春三月。各地から花のたより。私たちの町でもあちらこちら、桜の花のトンネルが出来た季節を迎えました。

年々歳々花相似たり歳々々々人同じからず時移り、早いもので平成の世も十八年目、少子高齢化に加え、いよいよ人口減少時代に入った様です。

一方、戦後の日本経済成長を支えた企業戦士、団塊の世代が間もなくまもなくに復員します。そして、町に新しい風が吹き、孫の手を引いて公園デビュー、犬の散歩のお付き合い……と云う情景も遠くありません。

又、最近、私たちの町には高齢者を対象にした介護施設が次々と誕生しています。

子ども達にとっての安全な町と共に、お年寄に優しい町を育てて行く事が必要な時を迎えたという時代背景でしょうか。

目をテレビ画面に移すと相変わらず、謝罪、弁明で頭を下げるニュースが流れています。

工業化、分業社会の中で、経済利益優先志向が人と人との信頼関係を破壊にさせ、自己責任や他を思いやる心を、どこかに忘れて来た様な感じがしないでもありません。

のどかな春、心にも美しい花を咲かせたいものです。

郷土紹介

梅と桜と桃と梨

三子玉川 会長 池田良夫

多摩川の両岸には、春になると次々に果樹の花が咲き、見事な景色を作る。

梅は、久地の梅林が有名だが、用賀の駅近くにも梅林があり行楽の人を魅めていた話は、歴史の中に埋没して、語れる人ももう少ない。

桜は、稲田堤の桜や、洗足池の桜がお花見のメッカだった。等々力溪谷、谷沢川、香川など見所は多数あるが、用賀一丁目の神学院の坂と、ファミリーパーク、西用賀通りの桜がみごと、八重桜なら、馬事公苑も是非行ってみよう。



子どもの安全

京西小学校 校長 水上英佐子

日頃は京西小学校の子どもたちを温かく見守ってくださりありがとうございます。

また、このゆびとまれ、夏まつり、ふれあい遊び、もちつき大会等、いつも子どもたちをご指導くださり、重ねてお礼申し上げます。

お陰様で子どもたちは健康やかに成長を続けております。

さらに、用賀の町の中では、子どもたちへの挨拶や声かけ、安全パトロールのフレンドを自転車につけてくださったりと、町ぐるみで子どもたちへの安全を配慮して下さり、感謝申し上げます。

皆様の、子どもたちを見守

見守って



つてくださる温かいまなざしや声かけ、そして笑顔は、目に見えない絆となって、子どもを孤独にせず、地域の一員としての自覚をもたせてくれております。

小学校時代の、私の住んでいた近隣の方々の挨拶や、励ましは、優しい声とともに、今でも耳もとに残っております。

それらの言葉が、自分を元気づけ、自信を与えてくれたことをありがたく思っております。

安心安全な町に住む子どもたちが、いつの日か、町づくりの中心となって活躍する人材となることを、期待しております。

幻の味母の味

三子玉川 田中昌子

東海道五十三次の一つ、沼津。

北に富士を仰ぎ、南は駿河湾に面した温暖な町がわが故郷です。

高校時代、天気の良い日の登校時、富士山に向かって狩野川沿いの堤防を自転車で走りました。

季節の移り変わり、時の経過、空模様など、さまざま条件によって微妙にその色や姿を変え、山は、幼い頃から憧れの的であり、語りでもありました。

加えて海の幸。今では鮮度の食糧難の時代にも新鮮な鰯、鰯などが豊富にあったと記憶しています。人の味覚は幼い頃に形成

わが故郷

されるのでしょうか。獲れたての魚で母が作ってくれた、鰯の酢味噌和えや鰯などとは幼い私の舌にしゃかりと記憶され、今や幻の味になってしまいました。

反面、「だからこの辺りからは偉い人が出ないの」という母のことばも思い出します。貧しくても何とか食べられるから、必死に努力する人が少ないということを言いたかったのでしょうか。

その後、新幹線の駅が隣の三島に決まった時、地元在住の弟が言ったものでした。「余り立派になると住みにくくなるからこれでもいい」と。

今、色々な世相を見るにつけ、この二人の話を複雑な心境で思い出しています。

スポーツ

フレスティバル

4月29日(土)兵庫島公園にて

瀬田フラワーランドの菜園

5月20日(土) 21日(日)

瀬田フラワーランドにて

エコラザ用賀オーガニック

(用賀4-7-1)

5月1日、用賀給食調理

場跡にエコラザ用賀と

がオーガニックします。

不用品情報交換の交換

へ譲ります。へ譲って

ください。掲示版

粗大ゴミのうち十分使える

家具などの展示と抽選

による提供

家具等の修理講座の開催

ごみ減量・リサイクルや

環境関連の資料の閲覧や

無料貸出し

区のリサイクル事業のPR

(用賀出張所)



春爛漫の花の季節が到来しました。

花は平和の象徴。昨今の信じられないような紛争と化した世相と事件の数々、せめて、美しい花でも眺めて心を和ませられたらと、地域の花の話題をテーマにしました。

幸にも、世田谷区は二十三区の中でも、緑の木々が多く残り、回分寺崖線を中心に、保存樹林制度や、ナショナルトラスト運動をたち上げています。

願わくば、わが町の花と緑の自然環境が、住民の理解と協力のもとに、いつまでも保たれますように祈っています。



(池田)